

## トップアスリートから学ぶ！「スポーツ」と「教育」（平成29年3月25日）



平成29年3月25日（土）、光華女子学園において、NPO法人光華ランニングクラブと京都市の共催で京都スポーツの殿堂「伝道事業」が開催されました。

第1部では、『自分で考える力』を育てるスポーツ』をテーマに、前半に、西孝一郎京都光華女子大学こども教育学部こども教育学科准教授による講演会を、また、後半に、西准教授のほか、早狩実紀氏、佐野優子氏、横山勝彦京都スポーツの殿堂委員会委員長代理を迎えてパネルディスカッションを開催しました。

横山委員長代理の進行のもと、早狩氏は「なんにでも『楽しい』と思う気持ちが大切。全国女子駅伝の監督を務めていたときは、どうしたら優勝という楽しさを選手に感じさせてあげられるかを一番に考え、陸上の技術だけでなく、人との関わりも大切にした。」と、また、佐野氏は「周囲に気を使う日本人ではあまり見かけないが、海外では、チームメイトに対して厳しい言葉を投げかけることがある。良いプレーのためには、時には自分の欲求をストレートに口に出すことも大切。」と、会場に訪れた幅広い世代の参加者に語りました。

そして、場所をグラウンドに移し、第2部は2部構成、計4グループに分かれての体験イベントの開始です。短い時間ではありますが、早狩実紀氏を中心とするトップアスリートの方々から、直接指導いただける貴重な時間です。早狩氏の軽やかな走りを目の前に、参加者の方は少しでも多くの技術を習得しようと、それぞれ熱心に指導に聞き入っていました。また、佐野優子氏も早狩氏らと一緒に同プログラムに参加され、ミニハードルの練習では、バレーボールで鍛え上げられた体幹を活かし、見事なジャンプ・ステップを見せてくれました。

小学生から大人の方まで、参加された方は一様に満足気な様子で、充実した一日となったようです。